



地球が大変 STOP温暖化!



地球温暖化とは

地球温暖化の原因となっているガスには様々なものがあります。なかでも二酸化炭素はもっとも温暖化への影響度が大きいガスです。産業革命以降、化石燃料の使用が増え、その結果、大気中の二酸化炭素の濃度も増加しています。

現在、世界の平均気温は14℃前後ですが、もし大気中に水蒸気や二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガスがなければ、-19℃くらいになります。太陽から地球に降り注ぐ光は、地球の大気を素通りして地面を暖め、その地表から放射される熱を温室効果ガスが吸収し大気を暖めているからです。

近年、産業活動が活発になり、二酸化炭素、メタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇し始めています。これが地球温暖化です。(図-1, 図-2)



IPCC¹ 第4次評価報告書

2007年に国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が公表しました第4次評価報告書では、気候システムに温暖化が起こっていると断定するとともに、20世紀半ば以降の温暖化は、人間活動による二酸化炭素など温室効果ガスの増加が原因であるとほぼ断定しました。

世界の平均気温は、過去100年間(1906～2005年)に0.74℃上昇しており、21世紀末には、1980年から1999年までと比較して1.1℃～6.4℃上昇すると予測しています。

また、世界の平均気温の上昇は、氷河の後退、水不足、熱波や干ばつの増加、種の絶滅の危機、穀物生産性の低下、感染症の拡大を引き起こすなど、異常気象の発生、水資源、生態系、食糧、人の健康などへの影響が懸念されています。

図-1 温暖化のしくみ

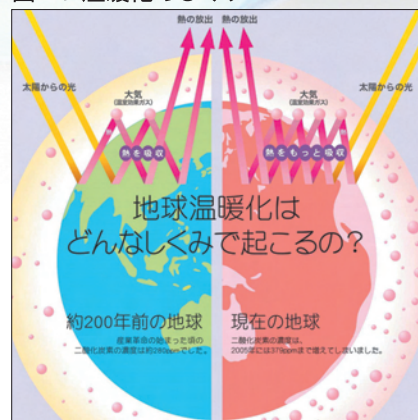
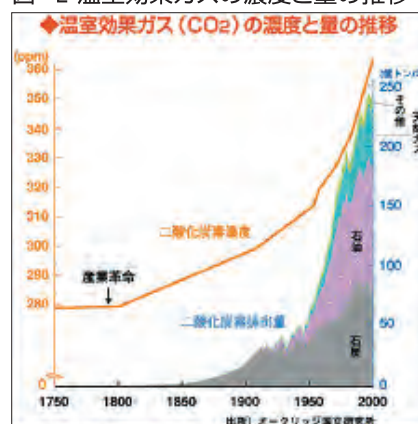


図-2 温室効果ガスの濃度と量の推移



出所：全国地球温暖化防止活動推進センター
ウェブサイトより

1 国連の気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate)